

# 成鶏に対するテラマイシンエツ グフォーミュラ投与試験

福田勇二 名倉清一

## まえがき

秋期産卵低下する時期にテラマイシンエツグフォーミュラを産卵鶏の飲水替に0.05%投与してその健康状態、産卵成績について試験する。

## 試験方法

### 1. 供試薬

Terramycin Egg Formula

飲水替濃度 0.05%

1b当内容

Terramycin	25.0 g
Vitamin K	360 mg
" E	300 units(単位)
" A	1,000,000 "
" B <sub>12</sub>	1,000 mcg
" D <sub>3</sub>	180,000 units
" B <sub>2</sub>	1,300 mg
Niacin amide	1,300 mg
Pantothenic acid	2,100 mg

### 2. 対象鶏

2-4年鶏 単冠白色レグホーン種

### 3. 区分

試験及び対照各1区

対照 2室に収容 24羽

年令、血統は両区共同一とする。

試験 2室に収容 24羽

4. 試験期間

32. 9. 2開始 32. 10. 21終了 50日間

5. 給与飼料配合割合

蜀黍	小麦	超	脱脂糖 米	蛹	粉末肝 油	カキガラ	魚粉	食塩
41	13.5	1305	145	36	0.45	3.15	144.	0.45

II. 試験成績

1. 産卵率で示せば下記のとおりである。

区分	試験開始前							試験期間										
	1	2	3	4	5	6	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
対照区	70	77.5	75	65	64	64	69.25	48.3	35.0	35.8	30.0	29.2	26.7	22.5	22.5	20.8	10.0	28.1
試験区	68	71	68	64	71	64	67.67	56.7	55.0	52.5	50.0	52.0	42.5	38.3	33.3	30.8	36.7	44.8

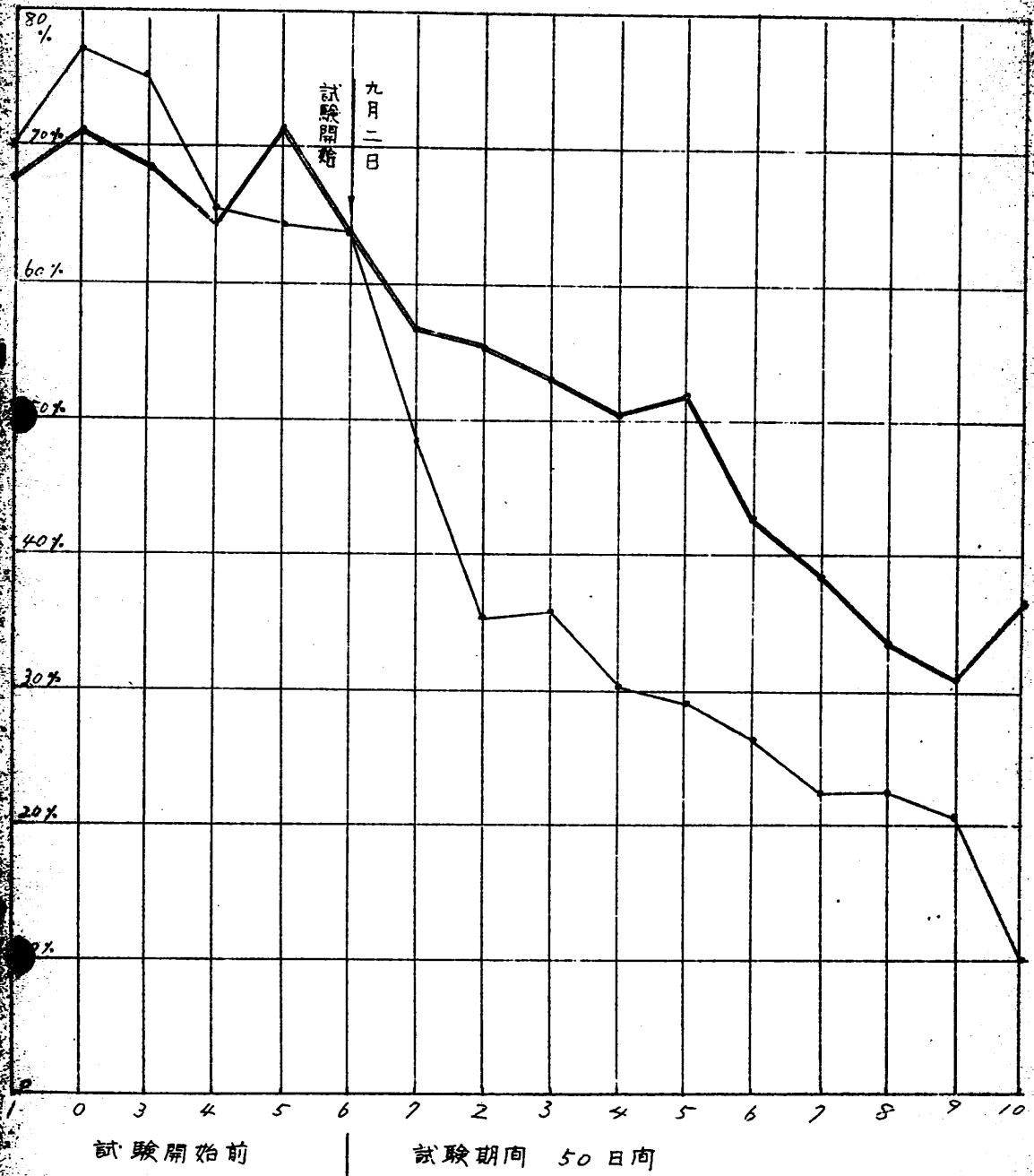
1. 産卵率は両区共5日間の平均産卵を示す。

2. 試験開始時の産卵率の急低下は9月初旬の気候の急変(台風の余波による風雨)によるものと思される。

2. 産卵個数

区分	試験開始前	試験期間	有意性の検定t分布による	
			試験開始前	試験期間
	30日間平均 産卵個数	50日間平均 産卵個数		
対照区	20,775	14,042		
試験区	20,301	22,416	(-)	(+)

平均産卵個数について試験開始前30日間の総計においては両区の間には有意な差は認められず、供試鶏として適当なものであることがわかり、試験期中50日間の総計におい



ては対照区より試験区の方が平均産卵数が大であり、この差は有意なものであることがわかつた。

### 3. 体 重

区 分	開 始 時	終 了 後	増 体 量
対 照 区	1.770	1.750	-20
試 験 区	1.787	1.904	117

### 4. 換羽状態（試験終了時）

区 分	換羽体産鶏	未換羽鶏産卵継続中のもの
対 照 区	18	6
試 験 区	12	12

## Ⅲ. 要 約

1. 産卵成績は試験区は対照区に比較してその低下の率は少く、その差は有意差であつた。
2. 体重においては対照区は平均20gの減体量を示し、試験区は117gの増体量を示した。
3. 換羽状態については、試験終了時対照区は未換羽鶏で、いまだ産卵を継続しているもの6羽、試験区は12羽であつた。

以上の成績より9月10日の換羽体産始期にテラマイシンエックフオーミユラを飲水槽に投与することにより、鶏体の維持に役立ち、産卵効果をあげたものと思つた。

尚、本試験は日本科学飼料協会久原正義氏の御協力によりなされたものであることを特に記して深甚の謝意を表する。

### 文 献

- |                  |       |              |
|------------------|-------|--------------|
| (1) 科学飼料給与試験成績速報 | 22号   | 6. 19 (1954) |
| (2) 科学飼料         | 2巻 3号 | 4 (1957)     |
| (3) "            | 2巻 7号 | 17 (1957)    |
| (4) "            | 1巻 6号 | 4 (1956)     |
| (5) "            | 2巻 3号 | 3 (1957)     |
| (6) "            | 2巻 4号 | 17 (1957)    |